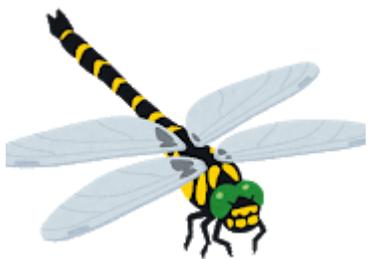


夕立の懐しき匂い友思う
焼茄子の匂いが誘う台所
門跡の声なつかしや三千院

幸美



富子

もみ茄子を義父に供へる七回忌
夕立をもともせずスニーカー
梅雨空にそだけ光る青ピアス

富江

○茄子畑にかくれた事も昭和の香
○おにゆりやスックと立ちて風を呼ぶ
糸蜻蛉走行車内素通りか

○印

酔花



千代

○夕立にからくり時計隠れけり
朝空の光をこぼす初なすび
土手道のランナーたたく夕立かな

美貴

○イージスアショア計画中止茄子焼く
○老鶯の声追ふ視線に加ははりぬ
夕立の八手の広葉打ちしきる

万貴

文子

○夕立の過ぎるを待たず駆け出す子
海桐咲く太鼓の練習島の子ら
早朝に蟹も参るや女坂

弘

○茄子の花いつから遠くなりし人
大夕立大志持たざる者たちに
梅雨寒の廊下に残る土踏まず

さえ

初江

○糠漬けの色良き茄子母達者
○塩飴を一つはおばり炎天へ
大夕立路面電車に借りる傘

丞子

焼き茄子やバター正油の皿五つ
落し文手おとぶみにころがして季語学ぶ
二時間の列もいとほぬ土用鰻

一枝

郁子

○くぎ一本茄子の紫紺の晴れやかに
さよならも言わず駆けたる夕立かな
鈴虫の白きひげ振る昼の黙もだ

味元 昭次 作品

長茄子を振り悪妻に抗いぬ
丸茄子は祖母の魂です夕間暮
コロナ禍の鬱を流さず夕立過ぐ

